

2. 仕様

- 2.1 測定精度 10秒以内
- 2.2 モノクロメータ部
- (1)モノクロメータ用結晶および大きさ 水晶SiO₂(1011)
15×13×厚さ(2~3)mm
- (2)モノクロメータのアオリ角度 ±5°
- (3)モノクロメータのXY方向移動量 ±3mm
- (4)モノクロメータホルダ軸の回転角 360°
- 2.3 スリット部
- (1)第1スリット(ピンホール) 0.7mmφ
- (2)第2スリット(散乱X線制限スリット) スリット巾1.2mm(固定巾)
- 2.4 ゴニオメータ部
- (1)試料軸微回転測角範囲.....6°(但し動作範囲は8°)
注(測角範囲とは、本装置の保証精度で測角出来る領域をいい、動作範囲とは、+、-側のリミッタが働くまでの範囲をいいます)
- (2)試料軸回転角度(微回転用クランプをはずすことにより、試料軸は自由回転し、且つ任意の位置でクランプできます).....360°
- 2.5 シャッター部
- (1)第1シャッター チューブシールド両窓側面に設置。手動引抜プロテクタ、カバーと連動し、X線の開・閉する。
- (2)第2シャッター(回転シャッター)
- 2.6 試料ホルダ部
- (1)試料ホルダ 真空チェック方式
- (2)試料サイズ 25×30×4mm(Max.)~9×9×0.2mm(Min.)
- 2.7 角度表示部
- (1)60進法によるデジタル表示
- (2)最小読み取り値 1秒
- (3)任意角度位置(ゴニオメータの)で、表示を0°00'00"にリセット、又はデジタルスイッチで設定した、任意の角度にプリセットが可能である。
- (4)レートメータ 時定数 0.1sec、0.4sec
- 2.8 X線検出器部
- ・プロポーションナル、カウンタプローブ(Ar封入)
- 2.9 X線発生部
- (1)定格出力 1kW(1.5kW)
(装置自体の出力は1.5kWであるが、高精度カット面としてはMax、1kWあれば充分である、標準組合わせX線管をCu、1kWとする。)
- (2)安定化方式 2-1制御方式 コンスタントポテンシャル
- (3)X線管電圧 20~50kV(2.5kVステップ)
- (4)X線管電流 2, 2.5~50mA(2.5mAステップ)
- (5)安定度 ±0.05%以内
- (6)X線管 Rigaku 回折X線管 Cal.No.9407F2
- (7)高圧ケーブル CN4251F3に追加加工処理をしたもの。

設置
3.1 装置概要
(1)寸法
(2)重量

1540(W)×860(D)×1150(H)
約500kg

3.2 設置手順

- (1)キャビネット本体の設置位置を決めて、床面に対してキャビネットがグラつかないように設置してください。
- (2)キャビネットの前面及び後面の扉をはずし、X線発生部の組付準備をします。同時にテーブル上のチューブシールドを、覆っているカバーもはずしておいてください。
- (3)本文での説明と併せて、X線発生装置Cat. No. 4013A1の取扱説明書を参照してください

- (取扱説明書No. MJ410FS)
- (4)アース線を部屋の接地端子からX G電力部の端子台TB401のGに接続します(第1図)。

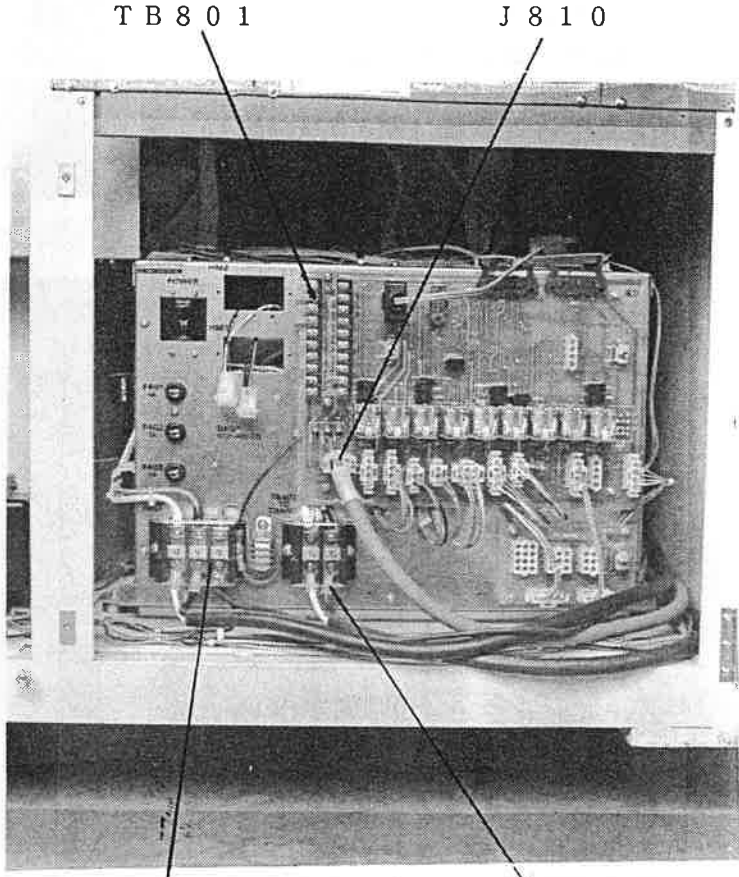
- (5)電源ケーブルの接続(第1図)
電源ケーブル(200V用、5.5^φ2芯)の一端をX G電力部TB401のU、Vに固定し他端をAC200Vの電源に壁スイッチを介して接続します。

なお、電源の接地されている方をTB401のVへ接続してください。

- (6)高圧トランスとX G電力部との接続(第1、2図)

接続用コードは、出荷時に第2図のように、トランス側端子台に接続してあります(未接続の場合は、端子に刻印された記号とトランス側端子台記号を合せてしっかりと締め付けてください)。このコードの先端1つのコネクターと2つの端子を第1図のX G電力部にある接続相手に記号を合わせて接続してください(ターミナルTB402及びコネクタJ810)

(X線発生装置取扱説明書MJ410FS-33参照)。



T B 8 0 1

J 8 1 0

第1図 X G電力部
(920417A06)

T B 4 0 1

T B 4 0 2